

感謝すること・喜ぶこと

人には感謝と喜びの思いが与えられています。さらに神様は、クリスチャンに感謝と喜びの深い意味を教えてください。でも実際には、「あなたは感謝にあふれていますか、喜んでいますか」と聞かれて、いつでも「はい！」と元気に答えられるわけではありません。この世界には意気消沈すること、つらいことも多く、私たちの感情はいつもそれらに揺さぶられています。この世界に生きている限りそれは避けられません。

神様が願っておられるのは私たちが喜びと感謝を取り戻すことです。そのためにどんなことができるでしょうか。

この課で学ぶこと

1. クリスチャンの感謝と喜び
2. 私たちの現状と神様の願い
3. キリストによる喜び
4. 喜びが失われた時の対処法
 - (1) 神に立ち返り、神を信頼する
 - (2) 祈って求める
 - (3) 神様のくださる恵みを数えてみる
5. 感謝と喜びをもって主に仕える生涯

●考えてみましょう

あなたの心は今、ポジティブ(喜び、うれしさ、感謝など)な思いとネガティブ(怒り、悲しみ、寂しさ、つらさ、不平、不安など)な思いのどちらの割合が大きいですか？

1. クリスチャンの感謝と喜び

イエス・キリストを信じたとき、あるいは洗礼を受けたとき、あなたはどんな思いでしたか。ある方は、イエス様を信じた時、世界が今までとは違って輝いて見えたと言います。イエス様を信じて救われることは、信じた者に神様への感謝と喜びをもたらします。罪が赦され、神の子として受け入れられ、永遠のいのちが与えられたのです。イエス様が「わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」(ヨハネ 4：14)と言われたその水をいただいたのです。そして全知全能の神様がいつも共にいてくださり、いかなるときにも私の味方です。また、与えられた聖霊が喜びという実も結ばせてくださいます(ガラテヤ 5：22)。毎週の礼拝は、いただいた恵みを確認し、救いの喜びと神様への感謝を覚えるときでもあります(詩篇 95：1-2)。

2. 私たちの現状と神様の願い

ところが時が経つと、新鮮に救いの喜びを覚え、感謝にあふれていられないことも出てきます。また日常の中で次第に神様や教会が色あせて見えたり、この世の刺激のほうが喜びになってしまったりします。また苦しみや試練にあい、その中で動揺して平安を失ったり、悲しんだりします。

神様は私たちがいつも感謝と喜びを保ち続けられるわけではない

4 感謝すること・喜ぶこと

ことをよくご存じです。なぜなら、私たちと同じように人となってくださったイエス様もそうした経験をしてくださったからです（ヘブル4：15）。それは私たち人間の思いを味わい、痛みに寄り添い共に苦しみ共に泣き、そしてそこから立ち上がらせてくださるためでした。

聖書は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」（1テサロニケ5：16-18）と言っています。もちろん見せかけだけ喜び、無理に感謝することを願っておられるのではありません。みことばが、「**喜びなさい**」と言っているのは、神様がだれにも喜びと感謝をお与えになることができるお方だからです。

3. キリストによる喜び

パウロは「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい」（ピリピ4：4）と言っています。ピリピ人への手紙にはパウロ自身の喜びがあふれていますが、そもそもパウロは何をそんなに喜んでいるのでしょうか。状況が好転し



コラム

喜びの書

パウロが書いた「ピリピ人への手紙」は喜びの書とも言われています。ピリピ教会はパウロを物質的にも霊的にも支え、パウロに大きな喜びを与えてきた教会です。ピリピの信徒たちはパウロとの親密な関係を喜んでいました。獄中でイエス様との親しい関係をもっているゆえに喜びに満たされていたパウロは、迫害の中にいるピリピの人々にも主にあるゆるがない喜びを持ってほしいと願いました。そうした背景から、ピリピ書には「喜び」ということばが16回も出てきます。

4 感謝すること・喜ぶこと

ている？立場が良くなった？そうではありませんでした。この時のパウロは獄中にいて、もしかしたら明日死刑の判決が出るかもしれない、そんな状況にいました。でもパウロは恐れと不安の中にはいませんでした。むしろ、「私が…、注ぎのささげ物となっても、私は喜びます」(ピリピ2：17)と言っています。

なぜでしょうか。「キリストにはかえられません」(教会福音讃美歌465番)にあるように、パウロにとっては、物質、地位、名誉、自分の肉体のいのちさえも、キリストにはかえられませんでした。こんな自分がイエス・キリストに救っていただいたこと、イエスの使命に生きることができること、そしてやがて救い主イエスに会えることが何よりもパウロの喜びでした。自分の状況はいろいろ変わっても、キリストから離れることはなく、喜びは変わらなかったのです。

パウロは言いました。「私はすべての物を受けて、満ちあふれています」(同4：18)。この地上で豊かでも貧しくてもどちらでもいい。キリストにあって私はすべてを持っているのだ。私はただうれしくて、満足していると言うのです。クリスチャンが与えられる喜びは、この世のものによりません。キリストによるのです。

4. 喜びが失われたときの対処法

感謝と喜びがないときは、まずは信仰者としての基本に立ち返ってみるのが大切です。心の目が閉じて見えなかったものが、再び少しずつ見え始めるかもしれません。

(1) 神に立ち返り、神を信頼する

ヘブル人への手紙には、「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい」(12：2)とあるとおり、イエス様から目を離すとき、私たちの心はほかのところに向かいます。ところが地上のものはなくなってしまうこともあります。するとそこに執着する

4 感謝すること・喜ぶこと

思い、それが失われたらどうしようという不安が出てきます。まずは、イエス様のところに帰って帰ることが大切です。

次にイエス様を信頼することです。イエス様は十字架にかかられる前、動揺して平安を失っている弟子たちに、「**あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい**」(ヨハネ 14:1)と言われました。特に恐れや不安のただ中にいるときは、神様が共にいてくださること、私を愛し、最善をなしてくださる方が私の信じる神様であることを思い起こし、主におまかせしましょう。

なぜこんなことが？と思う時、それでも神様に愛されていることを思い出しましょう。痛みや困難が大きいほど、時間はかかるかもしれませんが、忍耐して神様から離れないでいましょう。娘さんを亡くされたある信仰の先輩は、好きなみことばに「**神のなさることは、すべて時になって美しい**」(伝道者の書 3:11)をあげられました。神様のはかりしれないご計画の中で生かされていることを思い続けるとき、私たちの中に静かな喜びがわいてくるでしょう。

(2) 祈って求める

喜びは自分の力で作り出すことはむずかしいですが、与えてくださいと祈るとき、主は私たちに聖霊の実としての喜びをくださいます。ゆるがない喜びとそこからくる感謝は、神様が私たちにくださるプレゼントなのです。喜びがわいてこない時、苦難の中にある時、このただ中であってもゆるがぬ喜びをくださいと心を注ぎ出して主に祈り求めてみましょう。パウロは、「**何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい**」(ピリピ 4:6)と言っています。そうすることで、「**すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれ**」(同 4:7)るからです。

(3) 神様の下さる恵みを数えてみる

詩篇の記者は言いました。「わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩篇 103:2)。神様がくださる恵みを一つ一つ数えることもまた、私たちの中に忘れていた感謝と喜びをわき上がらせてくれます。心が騒いでいる時には、なかなか思い返したり思い出したりするのがむずかしいかもしれません。そういう時こそ、時間をとって神様の前に文字通り座りなおし、静まって主に聴きながら、今まで与えられてきた神様の恵みをゆっくり思い起こしてみましょ。主がどんな時にも共にいて、小さな事柄から大きな事柄まで導き、祝福していただけていることを思い出すことができるなら幸いです。

5. 感謝と喜びをもって主に仕える生涯

ハイデルベルグ信仰問答には「全生活にわたる感謝」という項目があります。

問 86 わたしたちが自分の悲惨さから、自分のいかなる功績にもよらず、恵みによりキリストを通して救われているのならば、なぜわたしたちは善い行いをしなければならないのですか。

答 なぜなら、キリストは、その血によってわたしたちを贖われた後に、その聖霊によってわたしたちをご自身のかたちへと生まれ変わらせてもくださるからです。それは、わたしたちがその恵みに対して全生活にわたって神に感謝を表し、この方がわたしたちによって賛美されるためです。…

(『ハイデルベルグ信仰問答』吉田隆訳、新教出版社)

私たちは、この地上の苦しみや痛みの中にあっても、神様の愛をいただき、神様を愛し人を愛する歩みへと変えられていきます。そしてなんて神様ってすばらしいのだろうと神様に感謝し、神様をほめたたえる者となるのです。

信仰問答はこのあと十戒と主の祈りを教え、それに従うように語っています。私たちは主イエスの十字架と聖霊の助けによって、父なる神様が与えてくださった律法を私たちの生活のただ中で実現する者に変えられます。具体的に主に奉仕とささげものをする歩みへと導かれていくのです。私たちが奉仕や献金をおささげするのは、神様への感謝の応答です。主にある感謝と喜びは、私たちの外側にあふれ、それはあなた自身と周囲の人の幸いにつながるでしょう。



コラム

星野富弘さんの詩

事故による頸椎(けいつい)損傷で首から下が動かなくなった星野富弘さんは、死にたくても自分では死ねない苦しみにあいました。その富弘さんはイエス・キリストに出会った後、次のような詩を詠みました。

いのちが一番大切だと思って
いたころ

生きるのが苦しかった

いのちより大切なものがある
と知った日

生きているのがうれしかった

(『いのちより大切なもの』
星野富弘著、Forest books)

まとめ

喜びがないときは、主に立ち返り、心を休め、主を信じ主がくださった恵みをゆっくりと思い起こす時間をとりましょう。私たちは、どんなときにも感謝と喜びをもって生きることができると人生に招かれたのです。

Q

話し合ってみましょう

1. 喜びと感謝を取り戻すために、あなたが今できることはなんですか？
2. 主の前に静まり、ふり返る時間をもてていますか？その中で、どんな感謝や喜びが与えられてきたでしょうか？あなたは今後さらにどんな交わりを持ちたいですか？

